

グラウンドワークとは・・・・・・・・

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたも、ぜひ活動にご参加ください。
(文中でグラウンドワークをGWと表記することがあります。)

「2025年度・グッドデザイン金賞」受賞

受賞対象の名称：水都・三島を再生 都市と農村を結ぶ水の道 「ホテルが舞い、水中花が咲く清流・源兵衛川」～三島の宝が世界の宝に！世界かんがい施設遺産～



11月4日、東京ガーデンシアターにおいて「2025年度・グッドデザイン賞祝賀会」が開催され、小松幸子理事長、小野徹副理事長、渡辺豊博専務理事、緒明春雄理事、美和将弘事業課長が参加。会場は祝賀の喜びに包まれ、3,500人もの参加者が国内外から集まっていた。

GW三島は、審査対象数5225件の中から「グッドデザイン・ベスト100」と「グッドデザイン金賞」（19件表彰・審査ユニット15・公共施設・土木・景観部門トップ）に選定された。「右手にスコップ・左手に缶ビールで30年以上にわたり、市民力を結集して、汚れていた源兵衛川を清流に再生。今後も引き続き、環境デザインの思想を極めていく。金賞受賞に感謝」と渡辺専務理事が挨拶。

11月1日～11月5日には東京ミッドタウンで、2025年度の「グッドデザイン受賞展」が開催され、11月2日は、グッドデザイン大賞・金賞受賞者を対象とした「みんなの選んだグッドデザインプレゼン大会」も開催され、渡辺専務理事がプレゼンを披露。多くの関係者・協力者に深謝。



この受賞報告のため11月20日、豊岡武士三島市長を表敬訪問。小松幸子理事長、渡辺豊博専務理事、中島一彦事務局長、美和将弘事業課長、職場体験中の三島南中学校の生徒3人と引率の新井健太先生、サポーターの加和太建設(株)天野謙一郎執行役員が出席。

30年以上前に立案した「環境デザインとエコロジーアップ」の思想が、時代を先導する物づくりのノウハウとして評価されたことと、サポーターの「知の結集」、市民による地道な維持管理の蓄積が、今の魅力的な源兵衛川を創り上げていることを渡辺専務理事が説明。市長からは、GW三島の長きにわたる源兵衛川での水辺環境の再生改善活動への感謝と受賞への敬意のお言葉をいただいた。



第18回静岡県景観賞・最優秀賞(静岡県知事賞)受賞表彰式「境川・清住緑地」



1988年に始まった静岡県都市景観賞は、2008年から対象を田園や農山漁村にも拡大し静岡県景観賞となった。第18回静岡県景観賞は、最優秀賞（県知事賞）1件「境川・清住緑地」、優秀賞2件が選定され、1月20日、静岡県庁東館21階で表彰式が開催された。「境川・清住緑地」は、三島市と清水町の境を流れる一級河川・境川の中流部に位置している。GW三島主導による民・官協働で再生した自然や生態を生かした景観、住民参加型の維持管理、人材育成・教育プログラムの実践が高く評価された。写真前列は川口宗敏審査委員長ほかと最優秀賞受賞者

▲左より、記念品：渡辺豊博専務理事 賞状：加和太建設(株)執行役員、静岡コンサル タント(株)代表取締役、三島市担当課長、小松幸子理事長

能登半島地震支援活動 「心を元気にするショートツアー」 (2025年度・第3回目 10/11~11/13)

10月11日、第3回「心を元気にするショートツアー」の38名が、能登から8時間かけバスで三島来訪。三嶋大社参拝後、いづみ荘で待望の温泉三昧。夕食、マッサージ、マジックなどを楽しむ。大人は、被災地の現実・課題などの情報交換会。心身を癒してもらい、元気の風を注ぐことができたのではと思う。

10月12日、2日目は「富士山5合目・宝永火口ツアー」。雲や霧に覆われ、諦めかけていたが快晴になり、富士山頂と下界を見ることができた。案内は藤井正明富士山インストラクター。世界一のパワースポット・富士山ので、元気になれたと思う。



次は、GW三島インストラクターの案内で「源兵衛川エコツアー」。きれいな川で魚とりに興じ、魚の説明に聞き入っていた。こんなにきれいな川は能登には無いそうで、川遊びを楽しむ子どもたちを見て親御さんは喜んだ。自然の豊かさは心身を癒し、子どもらしい姿や感情を呼び戻すことを実感。

いづみ荘に戻り温泉、夕食、マッサージ、ヨーヨー芸等を楽しみ、大人は情報交換会。被災地は解体だけが進み、街は閑散とし激しい人口減少が起きているようだ。未来予想図が描けない現実が人々を襲っているという現状に驚く。

10月13日、3日目・最終日は、三島北高校の体育館等をお借りし、知徳高校のボランティアによるスポーツ交流を参加者全員で楽しんだ。歓声を上げ、全力で走り回り、親子の交流と気分転換ができたのではないと思う。知徳高校生の段取りの良さと全員をまとめる力には感心した。昼食は中華料理。

最後にサポーターから贈る言葉。渡辺豊博専務理事は「今は大きな課題を抱え大変だと思いますが、ひとつずつ課題を解決し、輝く光・未来を目指してください。私たちは、能登を忘れない強い思いを持ち、遠く三島から皆様の安寧を願っています。今後とも支援活動を続けていきます」と結んだ。

能登半島(輪島市・能登町・珠洲市)訪問 協力依頼・実績報告

10月30日~31日、渡辺豊博専務理事は、能登に行って来た。今回は七尾まで電車。そこでレンタカーに乗り換え、2日間で250kmを走り回った。



用事は、輪島市・能登町・珠洲市の各教育長に、来年度実施予定の「心を元気にするショートツアー」への協力依頼と本年度の実績を報告。この2年間で7回のツアーを実施し、計281人(子ども154人・大人127人、能登町132人・珠洲市149人)を三島・富士山・伊豆に招待させていただいた。

各教育長には「富士山パワーをもらい元気がなった。源兵衛川の水辺再生の話聞いて復興・再建への意欲がわいた」などのアンケート結果を報告。来年度は対象地区に輪島市を追加し、より広範囲の皆様をご招待したい。

ネパール訪日団・水族館・芦ノ湖・ホームステイ 松毛川千年の森づくり体験・環境再生の講義

10月27日、「2025年度・第16次ネパール日本友好協会ネパール訪日団・グラウンドワーク三島視察体験」が開催され、ネパールから4名の元気な生徒・学生と引率の校長が三島に来訪。

人生で初めての海を体験するため、三津シーパラダイスを訪れ、その後、芦ノ湖遊覧、三島スカイウォークを体験し、柿田川湧水公園を散策。夕方、ホストファミリーと対面。ステイ先は、門倉様(女生徒2人)、江崎様(男子生徒1人と校長)、野本様(女子大生1人)。各家庭での貴重な経験は、深く心に残ることだろう。ご協力に感謝。

ネパールもエベレストがあり「水の国」。しかし現実には、水質悪化が進み、生活・衛生環境は厳しい状態にあるというのが実情。

10月28日、三島市内の散策の後、松毛川千年の森での植林地の下草刈りを体験。「新たな森を創り上げるためには、苗木の3年間は、年数回の下草刈りが必要で、この作業を怠ると森を創り上げられない」ことを学んだ。源兵衛川等の視察後、環境再生について「例えば、ある範囲を特定して集中的にゴミ拾いを行い、参加者に達成感を感じてもらおう。課題解決のために専門的知識を学び、一人一人が汚い川に入りゴミを拾う活動をスタートさせること」等、分かりやすく講義。その後の交流会は大いに盛り上がり、次への希望につながった。



人生、これからが本番

GW三島評議員

(株式会社アルガファーム)

おおたぐろ あつお

大田黒 敦雄さん (長泉町中土狩在住) 【寄稿】

昭和31年3月14日、熊本県大津町生まれ。高校までは地元の農家で、次男として土にまみれて育ちました。大学卒業後は裾野市の矢崎総業グループ、矢崎部品株式会社の工場へ。14年間勤務したのち、思い切ってソフトウェア開発会社を設立し、現在に至ります。

グラウンドワーク三島(GW三島)との出会いは、もう30年以上前。楽寿園で開催された、たしか第1回目の「ホテル祭り」でした。当時、三島青年会議所(JC)の一員として参加し、そこでGW三島の活動を知り、「面白そうだな」と感じたのが、長いお付き合いの始まりです。その後、GW三島のホームページ作成をお手伝いしたり、「富士山湧水マップ」を開発したりと、思い出は数えきれません(ぜひ検索してみてください)。

30年以上も関わり続けている理由——それはやはり、この人の存在でしょう。渡辺ジャンボさん。想像力と行動力、そして酒の力(笑)。まるで“謎の生命体”のようなエネルギーで、今なお進化し続ける姿には、ただただ驚かされます。GW三島の宝であり、これからもその進化を見届けたい、興味津々の存在です。

忘れられない出来事があります。10年前の熊本地震です。震源地は、私の生まれ育った町のすぐ隣、西原村と益城町。実家周辺も大きな被害を受けました。地震から1週間後、GW三島の理事である石岡博実さん率いる日本ステンレス工業の職人さんたちが、山梨から機材を積み、私のふるさとへ「ブルーシート掛けボランティア」に駆けつけてくれました。ジャンボさんも熊本まで来てくださり、一緒に作業をしたことをよく覚えています。

夜は、熊本・大津町の居酒屋で、馬刺しをつまみながら、石岡さんや職人さんたちと熱く語り合いました。あの夜の空気は、今でも鮮明です。地震で壊れた屋根に、危険を承知で登り、雨漏りを防ぐブルーシートを張っていく——まさに命がけの作業でした。被災された方々が涙を流して喜んでくださった姿を、私は一生忘れません。私は地元の人間として作業の段取りを担当しました。対応できたのは被害のほんの一部でしたが、いただいた感謝の言葉は、今も胸に残っています。石岡さん、そして職人の皆さんには、心から感謝しています。

その光景を前に、ふと自問しました。「自分は、ふるさとに何を返してきたのだろうか」と。悔しさと同時に、強い想いが湧いてきました。育ててもらったふるさと、そして農業に恩返しをしたい。残りの人生は、農家を元気にすること、そして「儲かる農業」に貢献すること」に使おうと決めた瞬間でした。それが、今の会社の目標です。

一つ目は、田植えをしない稲作「マイコスDDSR」による省力化とコスト削減。二つ目は、野菜精密選別システム「ピカセ」の開発。野菜の袋詰めを「早く・正確に・きれいに」行う、低価格で画期的な仕組みです。農家がしっかり利益を確保できる。その先に、跡を継ぎなくなる農業が生まれる。そうなれば、これ以上の喜びはありません。

生涯現役。人生は、ここからが本番です。ワクワクしながら、新しい挑戦を続けていきたい。GW三島とも、農業を通じて、これからも関わり続けていきたいと思っています。進化し続けるジャンボさんと、もう少しご一緒させていただきながら、農業分野でも貢献できれば幸いです。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



▼熊本地震被災地 熊本県阿蘇郡西原村大切畑地区
ほとんどの家が倒壊してしまいました。私の親友の家も倒壊しています。



法学者（専門は公法学）として活躍

法学者 たがみ じょうじ 田上 穰治



明治 40 (1907) 年、田方郡三島町 (現三島市) で生まれた。長男で一人っ子。父親は教師で田方郡中大見村 (現伊豆市) の出身。穰治は幼少期を三島で過ごしたが、父の転勤で香川県高松市に移り、小学校、中学校時代は四国各地を転々とした。徳島中学校から旧制第一高等学校を経て、昭和 2 (1927) 年、東京帝国大学法学部に入學。同学部の美濃部達吉教授 (法学博士) の影響を受け、憲法と行政法を専攻した。昭和 5 (1930) 年、卒業と同時に同大学の助手となり、美濃部の指導を受ける。新進の法学者として研究と教育に打ち込み、美濃部の愛弟子として遇された。昭和 7 (1932) 年、東京商科大学 (現一橋大学) の助手となる。

昭和 10 (1935) 年、美濃部達吉 (当時は貴族院議員) が「天皇機関説」で告発 (不敬罪) された。美濃部の学説は、当時の学会の主流であり日本の政党内閣制の理論的根拠となっていた。言論・学問の自由が失われ、急速にファッション化する時代の中で、穰治は苦しみ悩む。

昭和 13 (1938) 年、東京商科大学助教授、昭和 17 (1942) 年、教授に昇進。公法学 (憲法、比較憲法、行政法) の専門家として国家公務員法 (昭和 23 年)、新警察法 (昭和 29 年)、日米安保条約 (昭和 35 年) など重要法案の改定時には、参考人として国会に出席し意見を述べた。昭和 36 (1961) 年、論文「警察法」により法学博士の学位を受ける。一橋大学では、法学部長を 2 期務め、昭和 45 (1970) 年定年退職、一橋大学名誉教授となった。

その後も、明治学院大学、亜細亜大学、国士舘大学、警察大学などの教授や講師を務め、政府の各種委員を歴任。法学者の弟子は、長谷川正安 (名古屋大学名誉教授)、市原昌三郎 (一橋大学名誉教授)、杉原泰雄 (一橋大学名誉教授) など。指導学生は、大平正芳 (元内閣総理大臣)、小島太作 (元駐インド大使)、武野義治 (初代駐イスラエル大使)、吉永榮助 (一橋大学名誉教授)、富樫総一 (元労働事務次官)、金子善次郎 (元衆議院議員、元自治省大臣官房審議官)、真島一男 (元衆議院議員、元建設省都市局長) など。

著書は、『法律による行政』『警察法』『日本国憲法原論』『憲法の基本原則』『公法学研究』『行政法要説』など多数。

昭和 47 (1972) 年、紫綬褒章、昭和 53 (1978) 年、勲二等旭日重光章を受章。

穰治は敬虔なクリスチャンで、座右の銘は「新約聖書」と答えるほどだった。

平成 3 (1991) 年死去。享年 84。中伊豆町城 (現伊豆市) の ※ 城富院 (じょうふいん) に墓がある。死後、比較憲法学会内に田上穰治賞が設けられた。



▲『公法の基本問題』
田上穰治先生喜寿記念
編集: 市原昌三郎ほか

- ※ 1542 (天文 12) 年に最勝院七世笑山によって開かれた寺院。北條五代の祈願所でもあった。1655 (明暦元) 年に火災で焼失、また 1671 (寛文 11) 年に山崩れで被災したが、1681 (延宝 9) 年に再興され、現在に至っている。春には境内の「北條氏康公手植えの梅」が美しく咲く。
- 伊豆 88 遍路 第 4 番
- 山号 泉首山 (せんしゅさん)
- 宗派 曹洞宗
- 住所 伊豆市城 391



▲田上穰治が眠る城富院 (じょうふいん)

参考資料: 『群像いず』 静岡新聞社 永岡 治著
ウィキペディア

GW三島編集室メンバーの山田勝造さんのご逝去を悼み、ご冥福をお祈りします。 合掌

山田勝造さんをしのび、2013(平成25)年2月28日発行のVN49号に掲載の山田勝造さんの文章をご紹介します。



粗にして野なれど卑に墮さず

昭和20(1945)年、西伊豆町に生まれる。終戦間もないというのになぜか名前は勝造。「親父は敗戦を知らなかったのではないか」と思ったこともある。小さい頃は病弱で、いつも祖母が面倒を見てくれた。「一番になるとみんなから妬まれる。三番や四番では恥ずかしい。二番くらいがちょうどいい」というのが祖母の口癖。何をやっても今一步なのはこの辺りが原因か。

昭和44(1969)年、教師になり、8つの高校に奉職。「人生いたる処青山あり。我が行く処みな母校」を旨として生きた。37年間の教師生活を振り返ると、いい生徒にも恵まれ、己の利害得失を考へることなく、かなり伸び伸びと生きられたことは福音だったと思う。粗野な生き方しかできなかったが、卑屈に墮さないことだけは心がけたつもりである。

10年前、心筋梗塞で倒れ九死に一生を得た。以来、「これからは丸儲けぞよ娑婆遊び」という一茶の句のごとき人生を送ろうと思った。しかし、根が真面目なのか、なかなか達観できず、中途半端な日々を重ねてきた。ひたすら歩く「只管打歩(しかんたほ)」の毎日、無事息災でいられることは大病を経験したお蔭か。「散りぬべき時知りてこそ 花も花なれ、人も人なれ」。散り際を考へることも増えた。

たまたまGW三島理事長の小松幸子氏と高校時代の同級生という偶然にめぐまれ、昨年からはGW三島編集室の手伝いをするようになった。周りは素敵なご婦人ばかりで、少しのことにも娘のようにコロコロと笑う。昨今、我々男どもは笑いが少ないように思うが、考えすぎか。笑門来福。残りの人生、せめてワハハといきたいものだ。

GW三島も20周年を迎えるとか。この道程には、数えきれないほど多くの人々の善意が埋め込まれているはずである。地道に無償の献身をささげた声なき人々に最大限の敬意を表したい。

Smile スマイル

GW三島での職場体験で様々な学びを

三島市立南中学校 2年生 (五十音順)



おがわ けい 小川 慧さん



さかもと たつり 坂本 龍紀さん



はせがわ かんた 長谷川 寛太さん

11月19日～20日、三島市立南中学校の2年生3名がGW三島で職場体験。19日は、GW三島の概要を美和将弘事業課長から学んだ後、山口東司インストラクターの案内説明で源兵衛川・雷井戸・腰切不動尊等を散策。次に、松毛川千年の森づくりで下草刈りを体験。20日は、三島市長へのグッドデザイン金賞受賞報告に同行(P1参照)。その後、山下美穂GW三島事務局員の指導で「ゆめみしま」の袋詰め作業(下の新聞記事参照)。午後は、中島一彦GW三島事務局長や企業の方々と三島梅花藻の里の清掃作業。

「源兵衛川の散策では、川の歴史や、ホトケドジョウなど生き物のすごさが印象に残りました」「山口さんたちがミシマバイカモやホテルを大事にしていることが分かりました」。持参したiPadで撮影編集するという中学生。時代を感じるとともに、作業中の雑談にも、現代中学生気質が垣間見られて興味深かった。

▼令和7年(2025年)11月21日(金曜日)付の静岡新聞の記事

三島の新米で能登に元気を



新米の袋詰め作業に取り組む三島市立南中の生徒ら＝三島市のGW三島

三島のNPO法人グラウンドワーク(GW)三島は20日、交流を続ける能登半島の被災者を元気づけようと、市内の清流で育てたブランド米「ゆめみしま」を現地に届けるための袋詰め作業を行った。GW三島はこれまで、被災者を招待して市内や富士山麓などを巡るツアーを開催してきた。今回は22、23の両日、スタッフや知徳高、三島北高の生徒ら19人が石川県能登町や珠洲市を訪問。地域住民と交流し、収穫したばかりの新米約70㌧を贈る。事務所で行った新米の袋詰め作業には、職場体験で訪れている三島市立南中の生徒3人が協力した。2年の小川慧さんは「おいしく食べてもらえたらうれしい」と話した。

パッションNo. 54

能登半島被災地の人々との交流で自分も成長

私は演劇部に所属しています。三島北高校の外部講師であり、今回の「心を元気にするショートツアー」の中心人物の1人でもある「めんぼーさん」から、能登へ行くという話を聞いた時、絶対に参加したいと思いました。たくさんの人と関わり、自分の行動によって誰かに楽しんでもらいたいという思いがあったこと、そして演劇に活かせる学びが得られるのではないかと考えたからです。また、これまで2回、三島北高校の演劇部として三島で皆さんをお出迎えし、劇を披露させていただきました。来ていただくのを待つだけでなく、次は自分たちが行きたいと思ったことも、参加を決めた理由の一つです。

2日間は、知徳高校のレクリエーションやバルーンアート体験を行いました。お子さんたちと一緒にメディシングボールで走ったり、クリスマスリースを作ったり、風船の剣で遊んだり、私自身も一緒に楽しませていただきました。また、実際に能登を訪れ、「のと里山海道」で道路が陥没していたり、家が壊れていたりする様子を目にしました。テレビで見ていた被災地の状況が現実のものとして感じられ、自分の目で見なければ分からないことがあるのだと強く実感しました。

交流の中では、多くの方とお話しし、自分から声をかける大切さや、相手に寄り添って話を聞くことの大切さを学びました。さらに、以前に披露した劇を見てくださった方から「今回も楽しみにしていました」と声をかけていただき、自分たちの活動が誰かの心に残っていることを知り、胸がいっぱいになりました。今回のショートツアーを通して、人を楽しませる喜びと人と関わることの大切さを学び、自分自身の成長を強く感じる事ができました。

三島北高校1年 平澤 遥花(ひらさわ はるか)



GW三島の活動記録 2025年10月1日～2026年1月31日

月	日	曜	事業名	内容	場所	人数
10	7	火	境川ワンデイチャレンジ	草刈り、湧水地の清掃	境川・清住緑地	5
10	11	木	～13 能登半島支援「心を元気に富士山プロジェクト」	2025年度第2回「心を元気にするショートツアー」	三島市、伊豆市、富士山周辺	38
10	25	土	ゆめみしま収穫祭	稲刈り、はざ掛け体験	梅名地区水田	25
10	25	土	日本のベネツィア「水都・三島」を訪ねる	三島市内各地の視察・体験	三島市内各地	15
10	30	木	「心を元気にするショートツアー」実績報告	「心を元気にするショートツアー」の実績報告・被災地現地調査	能登町、珠洲市、輪島市	1
11	4	火	グッドデザイン賞祝賀会	受賞祝賀会	東京ガーデンシアター	5
11	7	金	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	草刈り	源兵衛川	8
11	8	土	富士山湧水調査隊	富士山北麓の湧水地調査	富士山北麓地域	2
11	14	金	ほたるの里環境再生ワンデイチャレンジ	草刈り、清掃	ほたるの里	18
11	15	土	松毛川千年の森づくり	耕作放棄地の草刈り、樹木の選定	松毛川	13
11	20	木	三島市長表敬訪問	受賞報告	三島市役所	8
11	22	土	～23 能登地震支援活動「心を元気に富士山プロジェクト」	出前フォローアップツアー	能登町、珠洲市	80
12	4	木	源兵衛川環境再生ワンデイチャレン	草刈り	源兵衛川	5
12	6	土	日本のベネツィア「水都・三島」を訪ねる	三島市内各地の視察・体験	三島市内各地	22
12	8	月	大場里山ワンデイチャレンジ	竹のチップ化	大場里山	11
12	9	火	大場里山ワンデイチャレンジ	竹のチップ化	大場里山	7
12	12	金	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	草刈り	源兵衛川	7
12	13	土	富士山湧水調査隊	富士山西麓の湧水地調査	富士山西麓地域	4
12	15	月	理事会・評議員会	会議	GW三島事務局	15
12	18	木	三島そば収穫体験	そばの収穫体験	元山中圃場	6
12	19	金	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	草刈り	源兵衛川	8
12	25	木	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	草刈り、溶岩ブロックの整地	源兵衛川	4
12	27	土	三島そば打ち教室	そば打ち体験	GW三島事務局	8
1	10	土	富士山湧水調査隊	富士山南麓の湧水地調査	富士山南麓地域	5
1	12	月	富士山湧水エコツアー	富士山麓の湧水地調査	富士山麓地域	8
1	17	土	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	放置竹林伐採	源兵衛川	10
1	20	火	静岡県景観賞授賞式	授賞式	静岡県庁	2
1	21	水	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	伐採した竹の片づけ	源兵衛川	6
1	22	木	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	伐採した竹の片づけ	源兵衛川	6
1	23	金	大場里山ワンデイチャレンジ	鳥居の制作	根継商店	10
1	24	土	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ	伐採した竹の片づけ	源兵衛川	10
1	28	水	腰切不動尊例祭	祠の清掃、読経	腰切不動尊	6
1	29	木	松毛川ワンデイチャレンジ	耕作放棄地の草刈り	松毛川	5
1	31	土	富士山湧水調査隊	富士山東麓の湧水調査	富士山東麓地域	2

〈源兵衛川環境出前講座〉

〈中学生の職場体験〉 11/11・12 中郷西中 3名、11/13・14 北中 2名、11/19・20 南中 3名

〈定例作業〉 ★三島梅花藻の里 18回 ★源兵衛川 4回 ★鏡池ミニ公園 4回

★桜川 4回 ★境川・清住緑地愛護会 4回 ★雷井戸 4回

★沢地グローバルガーデン 4回

〈定例会議〉 ★編集会議 8回

〈募金活動〉 ★松毛川の森を守る募金 ★能登半島地震支援募金

★能登半島豪雨災害支援募金 随時

視察来訪者記録 R7. 10. 1～R8. 1. 31

月日	視察団体	人数	地域
10 27 ~28	ネパール訪日団	6	ネパール
10 29	台湾彰化県埔心郷向所	15	台湾
11 15	青年塾	6	東京都
11 18	長浜まちなか地域づくり連合会	10	滋賀県

「三島そば」今期も完売

GW三島が三島市箱根西麓で生産している「三島そば」の花は、富士山を背景に昨秋満開となり、白い絨毯のような畑や壮大な駿河湾の景色が関係者を魅了した。12月上旬には収穫し、そば打ち教室も開催。希望者には販売。大変喜ばれ今回も完売した。

「ゆめみしま」の稲刈り体験・収穫祭



10月25日、三島市梅名地区のGW三島が借りている田んぼで行った。東京からの参加者もあり、白井幸太郎中郷用水土地改良区元理事長の指導を受けて、子供たちも各人で鎌を持ち、たわわに実った稲穂を刈り取り、はざかけ体験をした。「ゆめみしま」を開発したJTの元研究員から、おいしさの特性を伺い、賑やかに楽しく農作業体験が出来た。

雷井戸の整備

11月6日、雷井戸の整備を行った。ここは、富士山からの清冽な湧水が途絶えることなく自噴する市内最大の湧水地。GW三島は、雷井戸をはじめ、腰切不動尊、三島梅花藻の里、境川・清住緑地、鏡池などの井戸や湧水地を守り「命の水」をしっかりと保護・保全・維持していく。

日本のベネツィア「水都・三島」を訪ねる ～「世界かんがい施設遺産」源兵衛川と農の体験～

10月25日、三島の底知れぬ宝物・真価を実感し三島大好き 人間を増やす実験的な取り組みが開催された。新宿から乗車した参加者は、三島市立楽寿園・小浜池・白滝公園・桜川・御殿川を見学した。そして、みしま未来研究所にて箱根野菜を盛り込んだ弁当を食べ、「ゆめみしま」の稲刈り体験・三島梅花藻の里で意見交換・アンケートを行った。12月6日の体験は、三島そばの収穫。



源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ

11月7日、サポーターと共に実施。本年度最初の本格的な草刈りを行った。



カワニナの放流・補給も含めて、2月中旬までに10回程度、現場での作業を実施する。生き物たちの生育環境を維持管理し、ホタルが舞う清流・源兵衛川の保全活動を続けていく。

桜川の水草の排除と清掃方法の伝授

11月6日、三島市からの要請を受けて、市職員に駆除していい外来種と清掃方法を伝授。ミシマバイカモは残し、セキショウモ（重点対策外来種）、エビモ（侵略的外来種）、コカナダモ（侵略生物）、ヤナギモ（多年生沈水生物）を抜き取り排除。水草は魚の逃げ場、産卵場所。生き物の生育場所を守り、人と生き物が共生できる自然環境の保全のための具体的な対処方法を伝えていきたい。



「三島梅花藻の里」の定例整備作業（毎週木曜日 10時～）

毎週木曜日10時から、定例整備作業を行っている。ミシマバイカモに付着したヌクを掃き出し、見学デッキ、入口及び通路沿いの植栽の刈取りと剪定を行った。12月は「ヒマラヤザクラ」の花が見頃を迎えた。この桜の木は、約50年前、熱海高校に植えられたヒマラヤザクラから枝分けされたもので、GW三島は30年以上にわたり手入れをしている。1月には、キズイセンやボケの花が咲き、季節の移り変わりを伝えている。隣接する道路に噴出する湧水の処理の工事（発注者三島市）が2月から着手される。



松毛川河川改修工事の現場確認

10月9日、松毛川の河川工事の現場確認を実施。湛水していた水が抜かれ、軟弱地盤を土壌改良した土が露出していた。この改良土を築堤材として、上流部より左右岸に土手を築造していく予定。また、河畔林の倒木も片付け、川底を深くして河川断面を確保していく。川底から湧水が湧き出ている所に玉石などを入れて、清水を保全する。昔の清流がよみがえることを期待している。

「三島アメニティ大百科・別冊付録 No.19」 「絵本のまち・三島」



三島市は児童文学者・小出正吾、詩人・大岡信などを輩出した土地がある。以前から、佐野美術館では絵本原画展が開催され、個人宅の一室で本の貸し借りをを行う家庭文庫やボランティア団体が開催する絵本の読み聞かせなど、絵本の魅力を伝える活動が根付いていた。平成29（2017）年に宮西達也さんの「TATSU 'S GALLERY」、翌年、えがしらみちこさんの絵本専門店「えほんやさん」が、三嶋大社門前（三島市中央町）にオープンすると、絵本に関わる店や施設ができた。また、三島市が実施したアンケートの結果、文化芸術に触れる機会を求める市民の声が多くあり、絵本の秘めた力を活用して大人から子どもまでの三島市民が心豊かに暮らせるまちを官民協働で創造するプロジェクト「絵本のまち三島」が立ち上げられた。

令和6（2024）年4月26日、三島市長応接室にて、三島市ゆかりの4人の絵本作家（宮西達也さん、えがしらみちこさん、スギヤマカナヨさん、竹山美奈子さん）が立会人となり、「絵本のまち三島宣言式」が行われた。8月には、市民から原案を募集したロゴマークが決定した。翌年1月、三島にゆかりのある文人・絵本作家や「まちかど絵本箱」などを紹介した「絵本のまち三島MAP」が出来上がった。「まちかど絵本箱」とは、店舗や郵便局に設置された絵本スペースで、市内に点在している。

これら様々な資源を包括的に活用して、文化や観光の振興、商店街の活性化、福祉や教育の向上などにつなげながら、三島市内外の人にとって一層魅力あるまちを目指している。



三島市内の写真集



撮影者: やまぼうし

撮影場所: 隆泉苑(佐野美術館)

撮影日時: 2026/1/14 16:10

ひとこと: 隆泉苑の庭園には何本か梅の木があり1本が見頃に。例年より少し早いような気がするが、温かく日当たりが良かったから?しばらく楽しめそうです。

【投稿方法】 撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えてEメールに添付し、GW三島事務局まで。Eメール: info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます。募金の趣旨を生かして大切に使用させていただきます。

- * 東日本大震災支援募金
- * ネパール地震支援募金
- * 熊本地震支援募金
- * 大阪北部地震支援募金
- * 松毛川の森を守る募金
- * 西日本豪雨災害支援募金
- * 能登半島地震支援募金
- * 能登半島豪雨災害支援募金

観光案内所よろしく 様々な方が気軽に立ち寄る



この日は、中学生の職業体験でGW三島の事務所にいたら、カナダからのご夫妻が「三島スカイウォークに行きたいんだけど、どうすればいいかしら」と立ち寄った。

中島一彦事務局長が関係資料を示し、英語で親切に対応。GW三島の事務所は便利な場所にあり、明るくおもてなし。ゲストは、「観光大使」そのものと感じたのでは。

境川ワンデイチャレンジ

10月7日、加和太建設(株)の職員とGW三島のボランティアらが、境川の土手の草刈りと湧水地の雑草排除・ヌクの清掃作業・ミシマバイカモの保護作業を行った。今後も「協働の思想」で、三島磨きを続けていきたい。



富士山北麓で「富士山湧水調査隊」

11月8日、富士山北麓・山梨県側・山中湖村・都留市・忍野村・富士吉田市の湧水地14カ所を調査した。多くは未整備で放置され、ゴミも散乱していた。行政や住民から忘れ去られ、水源の枯渇や改変の懸念もあり、存亡への不安を感じた。GW三島の調査によると、静岡県側に300カ所・山梨県側に100カ所ある。そして、それらを15年ほど前から湧水調査をしているのはGW三島だけで、「富士山湧水マップ」としてホームページに実態を掲載している。

今後、富士山西麓・南麓の湧水調査を行う予定。湧水地の貴重性と湧水の味の違いも実感してほしい。



「アジア遺伝学会エクスカージョン」で源兵衛川再生物語



蓮馨寺にて

「アジア遺伝学会エクスカージョン」の一環で、国内外の学会参加者に源兵衛川再生物語を渡辺豊博専務理事が講話。汚れていた川を市民力で清流に蘇らせたノウハウとパッションに驚き、成功の秘訣を聞かれ「現場力」「議論よりアクションの力」と答えた。

現地案内と説明は小松幸子理事長(サポート: 英国留学経験者の秋田弘美さん)、通訳は加和太建設(株)職員の太田広之さんが担当。

国内外を東奔西走

GW三島の渡辺豊博専務理事は、東奔西走の日々。昨秋は9月29日から7日間、英国スタディーツアー、10月11日から12日間、国際フォーラム等で台湾訪問。様々な活動も、詳細はGW三島のHPでご確認を!

腰切不動尊例祭

1月28日、腰切不動尊の例祭を開催した。地域の歴史的・文化的な宝物を、今後も大切に守り、伝え続けていく。再生・復活した「腰切井戸」も美しい地下水を供給してくれている。



グラウンドワーク三島編集室 (五十音順)

浅井 一哉 河田 恵美子 岸野 和子 城所 徂帝 小松 幸子
佐々木 覚 相馬 幸永子 前田 充子 山崎 多紀子

GW三島事務局担当: 美和 将弘